

平成23年度
宇都宮短期大学附属高等学校入学試験問題

国語

— 注 意 —

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は、板書されている時間割のとりの50分間です。
- 3 問題数は大きな問題が5問で、表紙を除いて10ページです。
- 4 解答用紙は1枚で、答え方はマークシート方式です。
- 5 監督者の指示にしたがって、試験開始前に受験番号と氏名を解答用紙のきめられた欄に書き、さらに受験番号をマーク欄にマークしなさい。
- 6 答えは、解答用紙に記載されている〔解答マーク記入上の注意〕、および試験開始前に行われたマークシート練習プリントにしたがって、ていねいにマークしなさい。
- 7 試験中に質問があれば、手をあげて監督者に聞きなさい。
- 8 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおきなさい。

一

次のそれぞれの問いに答えよ。

問一

次の――線の(1)、(2)は同じ読みものを、(3)、(4)のカタカナは同じ漢字を用いるものを、それぞれ「」の中から選べ。

(1) 失神

「ア 神 棚 イ 神 社 ウ 神 妙 エ 神 業」

(2) 素肌

「ア 素 足 イ 素 材 ウ 素 朴 エ 素 描」

(3) キュウ屈

「ア 普 キュウ イ キュウ 済 ウ 紛 キュウ エ キュウ 地」

(4) 報ドウ

「ア ドウ 向 イ 武ドウ ウ ドウ 謡 エ 指ドウ」

問二

「思慮」と成り立ちが同じ熟語は、次のどれか。

ア 樹木 イ 気絶 ウ 取捨 エ 未熟

問三

「どんぐりの背比べ」の意味に最も近い熟語は、次のどれか。

ア 安全 イ 不可能 ウ 平凡 エ 善悪

二

次のそれぞれの問いに答えよ。

問一

次の例文のないと意味・用法が同じものは、後のどれか。
集合時間が過ぎているのに、まだだれも来ない。

ア 私は幼い頃から、食べ物好き嫌いはほとんどない。

イ 彼を旅行に誘ったが、どこにも行きたくないと言っている。

ウ 天気予報によると一日中雨なので、体操服はいらない。

エ 夏の終わりの空を見ていると、せつない気持ちになる。

問二

次の例文のとと意味・用法が同じものは、後のどれか。
友だちと外で夢中になって遊び、気がつくと暗くなっていた。

ア 近所の人に会ったら、こんにちはとあいさつをしよう。

イ 寒さの厳しい日が続いているが、三月になると暖くなる。

ウ 来週の日曜日には、母と一緒に買い物に行く予定だ。

エ 一生懸命に練習したので、堂々と試合に臨めた。

問三

次の例文の言うを尊敬語に改めるとき、最も適当なものは後のどれか。
先生の言うことは、とても正しいと思います。

ア 言います イ 申し上げる

ウ 述べる エ おっしゃる

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

鷹たかの羽にすむ虫ありけり。空たかくとびかけるときは、^①「げに、われは事(a)たれる身かな。つばさもうごかさで、千里の遠きに行きかよひ、雲(空ノ遠クマデモ上ガルヨウダ)のよそまでもあがるめり。みなおそれて、にげはしる」などおもひつつ、かの鷹の毛のうちに居ゐしが、つゐに、その鷹もたをれにけり。それより、^②みづからいでてとびかけらんとおもへども、とび得ず。からうじて、まづその毛のうちをくぐり出てはひゆけば、すずめの子のゐたりけり。われをおそれ(b)なるとみれば、すずめの子はしらぬさまなり。いかにして見つけざるや(ドウシテ見ツケナイノカ)とはいよれば、うれしげにみて、くちばしし出だして、ついはまんとす。^③例なきことなれば、恐ろしくて、^④にげ隠れぬ。

(「花月草紙」から)

問一 事(a)たれる身、おそれ(b)なんの本文中での意味は、それぞれ後の

どれか。

(1) 事たれる身

ア 不自由しない身の上

イ 高貴な家柄いえがらの出身

ウ ^(b)高い能力を持つ身体

エ 一目置かれる身分

(2) おそれ(b)なん

ア こわがらないだろう

イ こわがるだろうか

ウ こわがるに違いな

エ こわがってほしい

問二 とびかける、^①にげ隠れぬ。の主語の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

ア 「①鷹と虫 ④すずめの子」 イ 「①鷹と虫 ④虫」
ウ 「①鷹 ④鷹と虫」 エ 「①虫 ④すずめの子」

問三 ^②みづからいでてとびかけらんとあるが、この時の「虫」の気持ちとして最も適当なものは、次のどれか。

ア 「鷹」の死を受けいれることができず混乱する気持ち
イ 「鷹」の束縛から開放された喜びをかみしめる気持ち
ウ 「鷹」に依存せずに生きていくのは無理だと落胆する気持ち
エ 「鷹」に頼らなくても自分で飛べると信じて疑わない気持ち

問四 ^③例なきこととあるが、その内容として最も適当なものは、次のどれか。

ア 他者から親しみを込められるという思いがけない事態
イ 他者に食われそうになるという今まで経験のない危機
ウ 自分の方が強者であったという想像もなかった現実
エ すっかり弱気になるという通常では考えられない結果

問五 この説話の内容と似た語句として適当なものは、次のどれか。

ア 虎とらの威を借る狐きつね イ たで食う虫も好き好き
ウ かつばの川流れ エ 能ある鷹はつめを隠す

四

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ヒトはそのひとりひとりが独立した人格を認められ、かけがえない個人として尊重されるべきである、と考えられている。ヒト個人には、それにさまざまな権利が付与されている。そのうちもっとも基本的なものは個を尊重されて生きる権利である。

(a)、ヒト以外の生物はどうであろうか。飼い主としての家畜やペット、動物行動学の研究者にとっての研究対象の動物などでは、個体ごとにポチとかチビとかの名前が与えられ、特定の個体は、ほかの個体とは異なる個性をもったものとして扱われる。ミケをかわいがっていたおばあさんは、ミケがいなくなつたのでタマでがまんする、というわけにはいかない。名のない「吾輩」^{わがはい}でさえ、ペットらしからぬそのあだ名のもと、おおいにそのたぐい稀な個性を披露するのである。つまり、ペットについては、ヒトと同じように名が与えられ、^①十分に個を尊重され、個体が権利の主体となつているといえる。

(b)、野生の動植物では、普通、個体には名はない。もちろん、研究の対象とされる生物の場合、^②研究者によつて名を与えられることもある。私たちがオオヒシクイの生態を研究する際にも、芽生え一本一本に標識をつけて、そこにそれぞれの個体名を記した。もつとも名としては、単に3とか54とか^③そつけない番号が与えられたにすぎないのだが。動物の場合、特に哺乳類^{ほにゅうるい}の場合には、研究者ももつと気のきいた名前らしい名前をつけることがあるだろう。

しかし、研究対象というのは、この広い世のなかでは例外中の例外にすぎない。野生生物では、名前は通常、種やそのなかの特定の集団にだけ与えられる。

(c)、最近では、ヒトによる野生の命の蹂躪^{しんりつ}があまりにひどくなつてきたものだから、「自然の生存権」というものをよりどころにして、生き物の権利を代弁しようというヒトビトが現れた。そして、野生の生き物にかわつて、その権利を主張する裁判^④を起し始めた。アマミノクロウサギの生存権を訴えたものが、わが国では先駆的なものと思われるが、その原告はアマミノクロウサギの「ミミ」や「ピヨン吉」という個体ではなく、アマミノクロウサギという種そのものであった。

(d)、こんな例もある。茨城県^{いばらき}の霞ヶ浦^{かすみがうら}周辺には、雁^{かり}の仲間のオオヒシクイのもつとも南の越冬地がある。その場所に「圏央道」の計画路線がぶつかり、オオヒシクイの生息条件が悪化することが危惧^⑤されている。それを心配した自然保護団体のヒトたちはオオヒシクイの越冬地を鳥獣保護区にするための運動を始めた。そして、県がその越冬地を保護区に指定しないのは、鳥獣保護法違反であるとして、オオヒシクイの名を請求人に加えて県に監査を請求した。これに対して茨城県の監査委員は「鳥には請求権はない。」とはねつけたが、自然保護団体の代表は「オオヒシクイは霞ヶ浦の住民だ。」と反論し、オオヒシクイを原告とする訴訟を起こした。ここでも、^⑥オオヒシクイの個体を霞ヶ浦の住人としていたのではなく、オオヒシクイという種を、霞ヶ浦の住人としていたのである。

⑦ これらは、いずれも、環境サミットで生物多様性条約が採択されてから数年後のできごとであり、自然の生存権という環境倫理の新たな思想が広まりつつあることを示している。そこで権利の主体とされているのは、明らかに個体ではなく、その集団としての「種」なのである。

以上述べたことは、生物の種がちょうどヒトの個人に相当する重さをもって私たちに認識されていることを意味する。そして、それはまた、かなり妥当なことであるように思われる。「Ⅰ」生物群集・生態系の一員としての、つまり雑食性の動物としてのヒトは、植物や動物を食べることによってみずからの生存・成長・繁殖に必要な物質やエネルギーを調達しなければならない。言いかえれば、ほかの多くの動物の生活と同様、ヒトの暮らしも多様な「生物資源」の利用、つまり、殺生せつしょうによって維持されるものである。「Ⅱ」禁じられるべきは「むだな」殺生であつて、「殺生」そのものではない。Ⅲ「ヒトがほかの生き物とこの地球上で共存するためのおきてとしての自然の生存権の保障ということであれば、その内容は、」むだな殺生によって種を滅ぼしてはならない。」ということだろう。

〔Ⅳ〕

ヒト以外の生物については、少なくとも種としての命を尊重することにして、それをしっかり実践すれば、この地球の生物多様性をかなりのところで維持できるであろう。もちろん、熱帯林の破壊にともない、私たちがあらたな種として認識する前に、あまりにも多くの種が絶滅してしまうことにはおおいに危惧は残るし、他の生

き物の種の生存権を尊重するためには、ヒトは、これまでのような大量消費・浪費の悪弊(注4)を反省し、もつとつましやかに暮らすことを考えなければならないだろう。

(鷲谷わしたにいづみ「オオブタクサ、闘う」から)

(注1) 蹂躪じゅうりふⅡふみにじること

(注2) 危惧きぐⅡ心配すること

(注3) 環境サミットⅡ環境についての世界会議

(注4) 悪弊あくへいⅡ悪い習慣

問一 (a) から (d) に入る語の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

- ア 「a」 ところが b さて c また d では」
イ 「a」 では b ところが c さて d また」
ウ 「a」 さて b また c では d ところが」
エ 「a」 また b では c ところが d さて」

問二 ① 十分に個を尊重され、とあるが、その意味として適当なものは、次のどれか。

- ア それぞれの個体の持つ個性が研究対象となっていく。
イ 個性を持つことによりさらにヒトにかわいがられる。
ウ 与えられた名前にふさわしい個性を個体が発揮する。
エ 個体がほかの個体と完全に区別されて個性を認められる。

問三 ② 研究者によって名を与えられることもある。とあるが、その理由として最も適当なものは、次のどれか。

- ア 名前がないと一つ一つの個体を判別しにくいから
イ 個体に対して愛着がわいてくるから
ウ 種やその中の特定の集団をくり返し扱っていくから
エ 研究する上で個性を明示する必要があるから

問四 ③ ⑤ そっけない、先駆的な本文中での意味の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

- ア 「③」 工夫のない ⑤ 結果として残された」
イ 「③」 味気ない ⑤ 最も初めに行われた」
ウ 「③」 余裕のない ⑤ 一番先に見られた」
エ 「③」 つまらない ⑤ 実験的に投入された」

問五 ④ 裁判を起こし始めた。とあるが、その理由として最も適当なものは、次のどれか。

- ア 野生の生物にはできるだけ広い生活の場が必要だから
イ 野生の命を守らなくてはならない状況になったから
ウ 野生の生物には個を尊重されて生きる権利があるから
エ ヒトには野生の生き物の権利を代弁する自由があるから

問六 ⑥ オオヒシクイの個体を……としてしているのである。とあるが、その理由として最も適当なものは、次のどれか。

- ア 種ではなく個を請求人とするのは、鳥獣保護法に違反しているから
イ 特定の個体をその場の住人として考えると、種として全体をとらえることができなくなるから
ウ 霞ヶ浦ではオオヒシクイという種以外の鳥は少なく、オオヒシクイだけが住人と考えられているから
エ ヒトは、野生の生き物の種をヒトの個人と同等にとらえているから

問七 ^⑦ これらの内容として最も適当なものは、次のどれか。

- ア 野生の生き物の生息条件が悪化した例
- イ 野生生物の個が初めて尊重された例
- ウ 野生生物の権利をヒトが代弁した例
- エ 野生の生き物の命がヒトに乱暴に扱われた例

問八 次の一文が入るところは、本文中の「Ⅰ」から「Ⅳ」のどこか。適当なものを選べ。

というのは、ほかの生物すべての「個体」の生存権を認めたとすれば、生身のヒトの暮らしが成り立たなくなるからである。

- ア 「Ⅰ」
- イ 「Ⅱ」
- ウ 「Ⅲ」
- エ 「Ⅳ」

問九 本文中で述べられている内容として適当でないものは、次のどれか。

- ア 動物行動学の研究対象である動物は、研究者から特定の個性をもったものとして扱われる。
- イ 種というとならえ方をする事で、生物はヒトの個人と同等にみなされる。
- ウ 生物の多様性を守るため、ヒトは自然の破壊についてよく考えて暮らさなくてはならない。
- エ 環境倫理の新たな思想が広まった結果、環境サミットで生物多様性条約が採択された。

五

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

少年は銃砲店の硝子戸の前で立ちどまる。曇った硝子戸の中に、銃がずらりと並んでいる。少年は、それが欲しい。だが少年にはそれを買う資格もなければ、金もないのである。

「銃って何を撃つの？」と少年がいった。「いろいろだよ」と父親がいった。「カモダのイノシシだの、いろいろだよ」少年は階段に腰かけていた。父親はテーブルに腰かけて、一人で食後のウイスキーを飲んでいた。(a) 日が沈んで、あたりは暗くなっているのに、まだ電灯をつけていなかった。「それだけ？」と少年がいった。「ほんとは、人間を撃つんだろう？」父親は笑った。「戦争のときは、ね。だが今は誰もそんなことをしたりはしない。ハンターたちが、カモダのイノシシを撃つために使うんだよ」「ふうん」と少年は半信半疑になる。カモダのイノシシがそんなに沢山いるものだろうか？「もしも」と少年がいった。「もしも、弾丸をまちがって人に撃つとどうなるの？」父親は、少しわずらわしくなってきた。ひとりで(b) 酔いたいところだった。「死ぬの？」と少年がいった。「死ぬんだ」と父親が言い直した。だが、少年は「死ぬ」と発音することが出来なかった。いつも「死ぬ」とか「死まない」とかいって笑われるのである。

少年は **ア** について考えてみたことはなかった。しかし、

絶対ということについてなら、ときどき考えてみるがあった。

バットマンやビッグX、鉄腕アトムが絶対であるように、銃も(c) 絶対の存在であるような気がしたのだ。テレビの中で、一人の男がもう一人の男に追いつめられる。ぎりぎりの土壇場で、あわや、というときに追いつめられた方の男がポケットから拳銃を取り出すと、忽ち立場が逆転する。そんな場面を少年は何度も見たことがあった。「もし拳銃が手に入ったら」と少年は思った。「どんなにすてきだろう」少年は体が決して丈夫ではなかった。運動会ではいつも後方を走ったし、喧嘩をして勝ったことがなかった。

少年はことしの夏、線路をこえて、わざわざ神学校まで行ってみた。だが、青い蔭のからんだ札拝堂の中から出てくる神学生たちは、一人として少年の考えていた **イ** のイメージには近くはなかった。「ぼくは銃を買うんだ」と少年がいった。「ほんとうかい」と羨ましそうに、そばすがいった。「でも、撃ちかたも知らないだろう？」「なあに」と少年はいった。「撃ちかたなんかすぐ覚えられるさ」

少年は銃砲器店の曇り硝子に映っている自分の顔を見た。その顔にダブル・イメージで一列に銃が陳列されていた。「毎日来てるんだね」と売場のアルバイト学生が、銃身を拭きながら声をかけた。少年はだまって肩をすくめてみせた。「銃が好きかい？」とアルバイト学生がいった。「ああ好きだよ」と少年がいった。「好きでもまだ駄

目だよ」とアルバイト学生がいった。「あと十年は駄目だ」あと十年は長すぎると少年は思った。生まれてから、（ d ）十年たったばかりなのだ。「これはワルサーのスポーディング・ライフル五連発ボルト・アクションだよ。ほら、ここに刻んであるのが、ライフル・グループだ」とアルバイト学生は少年の手をとって、ぎざぎざしたところへさわらせた。「Ⅰ」少年はびっくりして手をひっこめた。何となく、こわい気がした。「一寸、持ってみるかい？」とアルバイト学生がいった。^③少年はだまっていた。アルバイト学生は、そのだまっている少年に賞状でも渡すように、銃を渡した。少年は、その銃を両手でうけとめた。「Ⅱ」それは冷たくて、しかも重かった。^④「銃は死んでいるのだ」と少年は思った。「だけど撃つときにはきつとよみがえるだろう」その銃は、油の匂い^{にお}がした。少年は前にも一度この匂いを嗅いだ^かことがあるような気がした。それは、母がまだ生きていたころの、櫛^{くし}の匂いだった。

その夜、少年は夢を見た。少年は銃を持って、冬草のしげみから、空をとぶ一羽の鳥をめがけて撃つところだった。少年は、銃の重さを肩に感じながら、引き金を引いた。「Ⅲ」しかし、弾丸は見事に命中して、空に鳥の羽毛が砕散した。「あたった！」と少年は夢のなかで叫んだ。だが弾丸が命中しても、鳥は落ちてこずに、すこしかたむいただけで、ゆっくりとびつづけてゆくのだ。つづけざまに少年は二発目、三発目を撃った。どの弾丸も鳥に命中し、そのたびに羽毛が空にとび散った。「Ⅳ」しかし、鳥はやっぱり、落ちずにとびつづけていた。少年はしだいに手がかじかんできた。そし

て、頬^ほはすりむけて肩の骨は外れそうに痛かった。それでも少年は撃ちつづけた。だが、鳥は落ちてはこなかった。^⑤少年は涙ぐんだ。銃を持っても、つき破れない強固なもう一つの世界があることが、無性になしなかった。少年の頭上に、どんよりとした人生以前の太陽がふりそそぎ、少年のスポーディング・ライフル五連発ボルト・アクションは、ただ、鳥のとび去ったあとの空を撃ちつづけるしかないのだった。

アメリカではライフル少年の犯罪が新聞記事を賑^{にぎ}わしている。少年が、ある日突然に自分の幸福な両親に、銃口を向ける恐怖は、そのままアメリカのベトナム政策への批判だという解説もある。だが、銃のつめたく重い存在感は一切の比喩^{ひゆ}をこぼむだろう。

あと十年！と少年は考えている。階段に腰をかけて、頬杖^{ほおづえ}をついて、昨夜の夢の終わったところから、今日を生きつづけないといけないのである。「ああ、はやく大人になりたいな」少年はつぶやく。そのつぶやきを背中^{へた}で聞きながら、父親はまた一人でウイスキーを飲んでいる。「銃を持ってない社会はつまらないが、銃を必要とする社会はもっとつまらない」酔いがまわってくると、二十年前の古傷がまた痛みだす。父親は、終わった戦争についてぼんやりと考える。^⑥「おれの足を駄目にしたのもたかが一本の銃だった。そして、いまおれの息子が欲しがっているのもたかが一本の銃なのだ」と。

（寺山修司「東京エレジー」から）

(注1) ワルサーⅡドイツの銃器メーカー

(注2) ボルト・アクションⅡボルトを手動で操作することで弾薬の装置・排出を行う機能

問一 (a) から (d) に入る語の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

- ア 「a すっかり b ゆっくり c また d やつと」
イ 「a また b すっかり c やつと d ゆっくり」
ウ 「a やつと b ゆっくり c すっかり d また」
エ 「a すっかり b また c やつと d ゆっくり」

問二 空欄 ア ・ イ に入る語の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

- ア 「ア 人 イ 銃」 イ 「ア 銃 イ 人」
ウ 「ア 死 イ 神」 エ 「ア 神 イ 死」

問三 「^①どんなにすてきだろう」とあるが、その理由として適当なもの、次のどれか。

- ア いつも「父親」から子ども扱いされている自分が、一人前の大人として認めてもらえるようになると考えたから
イ 夢の中ではいつも銃で鳥を撃ち落とすことができないので、現実の世界で鳥を撃ち落としたいと思っていたから

- ウ 母親が死んだうえに「父親」も健康な体ではなく、自分で自分の身を守るためには銃が必要だと思ったから
エ 日ごろ思い通りにいかないことばかりの自分が、優位な立場に立つことができるようになって考えたから

問四 「^②撃ちかたなんかすぐ覚えられるさ」とあるが、その時の「少年」の気持ちとして適当なものは、次のどれか。

- ア 早く銃の扱い方を身に付けることで、自分の弱さを断ち切ろう。
イ 今は銃の扱い方を身に付けるよりも、銃を手に入れることが大切だ。
ウ 銃を見ているだけで満足なので、その扱い方を身に付ける必要はない。
エ 銃を扱う自信がまったくないという不安を、強気な発言で打ち消そう。

問五 次の一文が入るところは、本文中の「Ⅰ」から「Ⅳ」のどこか。適当なものを後から選べ。

平手打ちでもくらったかのように、銃身が横頬にぶつかった。

- ア 「Ⅰ」 イ 「Ⅱ」 ウ 「Ⅲ」 エ 「Ⅳ」

問六③ 少年はだまっていた。とあるが、その時の「少年」の気持ちの説明として適当なものは、次のどれか。

ア 本物の銃の大きな存在感到に圧倒され、自分にはそれを受け止められない気がしてとまどっている。

イ 自分を拒絶するかのような銃のぎざぎざした感触に、怖くなくてその場から逃げ出したくなっている。

ウ すぐにでも銃が欲しいのに、「あと十年はだめだ」と言うアルバイト学生に反発している。

エ 本当は銃をすぐに受け取りたかったが、心の内をみすかされたように恥ずかしく思っている。

問七④ 「銃は死んでいるのだ」とあるが、その時の「少年」の気持ちとして適当なものは、次のどれか。

ア 平和である今の世の中において銃は必要ないもので、自分が欲しがっていたことは間違っていた。

イ 銃を手に入れたが、自分に何も語りかけてくれないこの銃からは力を得ることができそうもない。

ウ すべてを死へと追いやる冷たくて重い銃は、恐ろしくて触ってはいけないものようだ。

エ 銃を持つのはまだ早いと言われているようで、幼い自分では思うように銃は動いてくれそうもない。

問八⑤ 少年は涙ぐんだ。とあるが、その理由として適当なものは、次のどれか。

ア 夢中で鳥を撃っている間には感じられなかった体の痛みが、時間がたつにつれてひどくなってきたから

イ 人生を変えることは不可能であると分かっていたのに、それを承知で変えようとした自分の行動を後悔したから

ウ 今の自分にはどんな手段を使っても、人生は変えることができないと感じたから

エ アメリカのライフル少年の話のように、銃への執着が自分と「父親」との関係を壊すものであると気づいたから

問九⑥ 「おれの足を……銃なのだ」とあるが、その時の「父親」の気持ちとして適当でないものは、次のどれか。

ア 息子が大人へと成長しようとしている今こそ、父親である自分が銃の怖さを息子に教えなければならぬ。

イ 人を傷つけるだけの銃がなくならない現実はやりきれないが、自分にはそれをどうすることもできない。

ウ 自分を傷つけた銃を、息子が欲しがっているという皮肉な現実が悲しい。

エ 息子が銃の話をする、過去のつらい戦争体験が思い出されてせつない。